

# 夢の設計図

やりたい仕事や実現したい夢 **ホテルの経営者** その仕事や夢を選んだ理由 **日本各土地の魅力をひろめたい**

その仕事や夢を実現するために必要な条件(資格など)や力、お金はなんだろう  
人を思やる心、お金を重くかか、ボニケーション、リーダーシップ、英語力、発想力  
英検1級、TOEIC850点以上、MBA取得、土地代、学費(大学院まで)  
留学費、ホテル立費用

年齢	必要な能力を身につけるためにやること
12才	小学校 友達と遊んだり、家族旅行ボランティアなどを通して人を喜ばせる工夫を学ぶこと、観光やホテルの仕事を知る。
13才	中学校 英語社会をしっかりと勉強。学校の文化祭などで友達とコミュニケーションを身につける。英検3級、簿記2級取得。
15才	中学校
16才	高校 ホテル見学やインターシップに参加。ホテルのもっと専門的な知識を学ぶ。簿記3級、英検2級、簿記1級
18才	高校
19~20才	大学 慶應大学経済学部へ入学。英検1級。
21才	大学 海外留学。国際的な視点を身につける。
22才	大学 ホテルや観光地でアルバイト経験。簿記2級
23~26才	仕事 星野リゾートに就く職。チームでの経営を学ぶ。
27~28才	仕事 MBA取得。TOEIC850点以上。留学費用について調べる。
29~34才	仕事 リスクを冒して、チームのリーダーなど責任の重い仕事をやる。
35才	仕事 自分のホテルを作る。必要なお金や法律を調べる。

仕事以外であなたが大人になったらやってみたいこと、実現したいこと  
本を読むことが好きなので、自分が感動した本や面白い本を集めた  
図書館をつくりたい。

## わくわくするホテルをつくりたい

千葉大学教育学部附属小学校 四年 藤本 瑞己

窓の外に広がる雪景色。暗い空から降る雪は、まさに「しんしんと」という言葉がびったりだった。

ほくの住んでいる千葉ではめったに雪が降らない。だから「しんしんと」という表現を習ったのはずいぶん前だが、どうしてもイメージがわかなかつたのだ。

家族旅行で新潟へ行った時、ホテルのロビーをぬけると壁一面に大きな窓があつて、雪山と下に広がる町の明かりがまるで絵画のように美しく見えていた。その中を雪が静かに降るのを見て、ほくはやっと「しんしんと」のイメージをつかんだ気がした。しかし、ただ雪が降るのを見ただけでは、こんなに印象深く、心に刻まれることはなかつたように思う。今思えば、大きな窓はピカピカだったし、夜景がよく見えるように窓の周りには照明が暗くなつていった。壮大な雪景色を、観光客の心に届ける細やかな工夫があつた

のだ。そのホテルでは地域の伝統を体験できるコーナーがあり、知らないことばかりでとてもわくわくした。スタッフの方も笑顔で楽しそうだったのが印象的だった。「こんなわくわくするホテルをつくりたい」ほくの夢のはじまりだ。

星野佳路さんというホテルづくりで有名な人がいる。星野さんがつくるホテルは、地域の自然や文化を生かして、来てくれる人にその土地ならではの特別な体験を届けているそう。テレビで見たホテルは、まるでテーマパークのよう。一日中ホテルの中で過ごしてもまだ足りない気がした。星野さんは、「ホテルを気に入ってたくさん観光客が来れば、その地域もよりあがる。」と話されていた。ホテルの利益だけでなく、地域全体のプラスになることを考えるのがすごいと思つた。

いつか星野さんのホテルに泊まるのが

ほくのひそかな願いだ。そして、かなうなら星野リゾートで働きながら、ホテル経営のノウハウを学びたい。そのために、小学生のうちから社会をしっかりと学び、地域の特徴や強みを勉強しようと思う。また、外国からの観光客にも日本の魅力を伝えるため英語の勉強も欠かせない。

大学は経営学を勉強し、交換留学生としてアメリカに滞在して国際的な考え方や語学力を身につけるつもりだ。卒業後はホテルに就職し、従業員の立場から経営について考えたい。その後、ホテル経営学で有名なコーネル大学へ留学してMBAを取得する。これにはかなりのお金が必要になつてくる。アルバイトや仕事での給料を早くから投資にまわし、奨学金についても調べるつもりだ。

学力だけでなくボランティアやインターシップなどを通して、様々な立場の人と関わりながらリーダーになるための能力も身につけたい。たくさん仲間で協力し、訪れる人にほくのような新しい体験を届ける「わくわくするホテル」をつくるのがほくの夢だ。

\*こちらは、小学生『夢をかなえる』作文コンクールの「ライフプランシート」としても使えます。